

## 地球環境問題と環境マネジメント

岡山大学環境管理センター  
センター長 西村 伸一

9月に入り台風の季節になりました。今年は、既に5つの台風が日本列島に上陸しています。とくに、本来は台風から遠かった北海道に大きな被害が出ていることが注目されます。この事態に、我々は、地球温暖化の影響を感じざるを得ません。温暖化対策が地球規模で重要であることは、国民も認識するところであり、政府も国全体の温室効果ガス排出量を2030年度に26%削減（2013年度比）するため「地球温暖化対策計画」を閣議決定しています。この様な流れの中で、環境管理センターでも、温暖化防止・省エネ対策方法の提案や教育が一つの柱になりつつあります。

環境管理センターは、学内の環境マネジメントおよび労働安全の充実を図っています。すなわち、化学物質管理、廃棄物管理、排水管理、実験廃液管理、職場や実験室等の安全管理、およびこれらに関連する教育・啓発を行っています。環境問題対応としては、具体的に、環境管理センターが中心となり、環境マネジメント委員会を運営しています。その下部組織として、地球温暖化対策・エネルギー管理専門部会、環境広報専門部会、省資源対策専門部会、化学物質管理専門部会が存在しています。環境広報としては、環境報告書の刊行を行っており、省資源対策としては、節水、グリーン購入、ペーパーレス化の促進などの啓蒙を行っています。また、化学物質管理および排水管理は、従来から環境管理センターが担ってきた業務で、差し当たり最も重要な業務です。法規制が厳しくなる中、気を引き締めて取り組んでいるところです。化学物質の適正管理は、化学物質を取り扱う研究者にとって、実験を続けていくための必須要件ですので、管理の厳格化が進みやすいところです。一方で、地球温暖化対策については、大学構成員が際し迫った問題意識を持つことが難しく、センターにおいても温暖化対策の取り組みには難渋しています。取り組みやすい省エネ対策などは、ある程度進んでいるため、更なる推進には、大学構成員の高い意識が必要となります。地球温暖化は、個々人問題としては、差し迫っていないところに対策の難しさがあります。一方では、地球温暖化が、地球規模で差し迫った問題になっていることは周知の事実です。この個人としての環境問題と、地球環境問題のギャップを埋める教育活動が、環境管理センターの一つの柱になると考えられます。

労働安全に関する大きな問題としては、労働安全衛生法の改正に伴って、化学物質のリスクアセスメントが義務づけられました。岡山大学では、安全衛生推進機構がこの問題を所掌しています。環境管理センターは、その作業を機構と協働することを約束しており、作業を始めようとしているところです。

この様に、地球温暖化問題など、問題はグローバル化・複雑化しており、労働安全問題を含めて、取り組むべき問題も多種多様化していますが、環境管理センターとしては、挑戦する気持ちをもって、一つずつ問題に取り組んでいきたいと考えています。